

What is necessary is not a map, but a compass.

地図ではなく、コンパスを。

平成26年度指定

スーパーグローバルハイスクール

研究報告書・第4年次



平成26年度指定

スーパーグローバルハイスクール
研究報告書・第4年次

平成30年3月

大阪府立三国丘高等学校

平成30年3月

 大阪府立三国丘高等学校



大阪府立三国丘高等学校 SGH フォトギャラリー

<2年生課題研究発表会> 平成30年2月



<SGH 全国高校生フォーラム 審査委員長賞受賞> 平成 29 年 11 月



<高校生ビジネスプラン・グランプリ 南近畿地区表彰式・プランセッション>

平成 29 年 12 月、平成 30 年 1 月

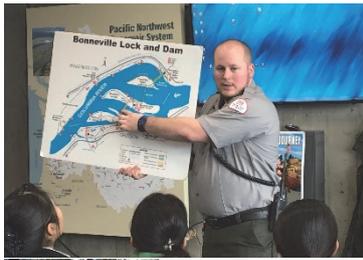


<1 年生課題研究発表会> 平成 29 年 11 月、平成 30 年 2 月



<米国オレゴン州ポートランド市フィールドワーク> 平成 29 年 3 月

Forest Center, ポートランド市開発局、メルルハースト大学、ポートランド州立大学、Bonneville Dam、Green Building、NGO 等の講義や視察、ホームステイの方々、現地での課題研究発表



<フィリピンマニラ市フィールドワーク> 平成 29 年 8 月

アジア開発銀行、パヤタス、GK Farm(社会起業家を育成する農園)での研修や視察、エンドラン大学生とのバディシステム、現地での課題研究発表



巻 頭 言

校長 山口 智子

平成26年度、文部科学省から第1期のSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け、『地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する「創造的課題解決能力」を持つグローバルリーダーの育成』を目的として多くの皆様方のご指導・ご援助を受けながら、本校教員一丸となってSGH事業に取り組んでまいりました。指定4年目となりました平成29年度の活動内容を、「平成29年度スーパーグローバルハイスクール研究報告書」としてまとめましたので、ご報告申し上げます。

1年生は、「国際人としての理念を学ぶ」をテーマにした元国連開発計画開発政策局長などの国際機関でのご経験豊かな西本昌二先生によるご指導、そして「先進国の知見を学ぶ」をテーマに来年度新たに企画しました「アメリカ リーハイ大学研修」に向けてネイティブの先生によるオールイングリッシュでの経済・経営・起業に関する授業を行いました。それらの学びを踏まえて、地元企業や役所に生徒自らアポイントを取り、取材に行く等の発想力や行動力は、先輩たちにも負けず劣らずで、教員の予想以上のものでした。2月の校内向け「SGH1年生課題研究発表会」では、身近な社会問題の問題解決に向けての提言を、生徒たちなりの力で提唱することに取り組み、内容の濃い課題研究発表となりました。2年次の海外フィールドワークに向け、さらなる成長が期待されます。

2年生は、3月末に1年次に学んだメルルハースト大学のある米国ポートランド市で、都市開発や環境について実地研修し、そこで学んだ事を現地にて英語で発表する経験を積み、新学期からは「発展途上国の現状を学ぶ」そしてさらに「BOPビジネスプランを提言する」というテーマを念頭に学習に取り組み、満を持して8月初めフィリピンマニラでの研修を実施いたしました。マニラのエンドラン大学では、昨年度より本校との共同研修を大学の「リーダーシッププログラム」として正式なカリキュラムになったため、エンドラン大学生の意識も昨年同様大変高く、充実した研修を送ることができました。初めて目にする発展途上国の現実の中で、さまざまな課題を持ち帰り、それらをもとに発想・意識を広げて“BOPビジネスプラン”作成に取り組み、10月には、日本政策金融公庫主催の第5回「高校生ビジネスプラングランプリ」に応募。また、11月には、文部科学省主催で初めてSGH指定校・SGHアソシエイト校が集まっての「SGH全国高校生フォーラム」に代表チームが参加し、参加130数校中、全国ベスト4にあたる栄えある「審査委員長賞」を受賞いたしました。本校のSGH活動を高く評価いただけて、誠に嬉しく光栄に思います。生徒達は、年度後半もさらに調査に磨きをかけて研究を進め、2月の「2年生課題研究発表会」や3月の「SGH甲子園」や地元「堺ロータリークラブ」で発表するなど、後輩達に大いに刺激と影響を与えてくれています。

さまざまな場面でご指導、ご助言いただきました多くの先生方や皆様方のお陰で、このような充実したSGH事業を行なう事ができております事に、改めまして感謝とお礼を申し上げます。それと共に、来年度、本校SGH5年指定の最終年度となりますが、これまでSGH事業で開発し、大きな成果を出してきた教育活動を、どのように今後とも継続・発展させていくことができるのか、模索していく必要があるかと思えます。

これからもより一層のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

平成 26 年度指定スーパーグローバルハイスクール研究報告書

第 4 年次 平成 30 年 3 月 大阪府立三国丘高等学校

目 次

平成 29 年度 SGH 研究開発完了報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ～ 8

平成 29 年度 SGH 課題研究授業（Creative Solutions I II III）一覧・・・・・・・・・・・・ 9

平成 29 年度 SGH 活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 ～ 16

- 1 本校の SGH カリキュラムについて
- 2 活動内容
- 3 国内海外研修
- 4 国内外の大学や企業、国際機関との連携
- 5 外国語教育
- 6 評価について
- 7 仮説の検証

(資料)

平成 29 年度教育課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17 ～ 22

フィリピンフィールドワーク報告書（平成 29 年 8 月実施）・・・・・・・・・・・・ 23 ～ 29

ループリック（2 年生課題研究発表用）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

評価ポートフォリオ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31 ～ 34

生徒アンケート集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35 ～ 38

平成30年3月12日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 大阪市中央区大手前2丁目
管理機関名 大阪府教育委員会
代表者名 教育長 向井 正博



平成29年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成29年4月3日（契約締結日）～平成30年3月30日

2 指定校名

学校名 大阪府立三国丘高等学校

学校長名 山口 智子

3 研究開発名

「持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム」

4 研究開発概要

SGH 指定4年めとなる本年も生徒達はしっかりと活動に取り組み、SGH 全国高校生フォーラムで審査委員長賞を受賞するなど成果を上げた。また、米国の名門大学であるリーハイ大学との連携が決定し、来年度から本校のための特別プログラムを実施していただけることとなり、フィリピンフィールドワークで連携しているエンドラン大学は本校との交流をきっかけに昨年 Leadership Program というカリキュラムを立ち上げたが、その一環でフィリピンの大学生がはじめて本校を訪問し研修を行ったりなど、海外大学との連携もさらに発展させることができた。校内では、SGH の経験をもとに探究（課題研究）の授業が活発化し、多くの教員が指導する体制が確立された。中間評価でご指摘いただいた「取組の分析・省察」については「評価ポートフォリオ」を確立し、SGH 連絡協議会の分科会で発表するなど普及に努めた。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①英語教育支援	→											
②海外研修支援				→								

リーダーズハイスクール(GLHS)合同発表会でSGHの研究成果を生徒が発表。発表に対しては評価に用いるルーブリックを府教育委員会が作成し、課題研究の質の向上を図り、その成果の普及還元に努めた。

⑥指導助言

担当課の複数の指導主事が、授業や研究実践への関わり、また次年度の計画の作成、報告書作成など、指導助言を通年にわたって行った。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①課題研究指導													→
②成果の公表普及													→
③運営指導委員会													
④事業の評価							→	○		→	○		→
⑤大学との連携													→
⑥報告書の作成											→	○	

(2) 実績の説明

1 課題研究

1. SGH core program

1) 学校設定科目「Creative Solutions I II III」

①「Creative Solutions I」(2単位) 選択授業 文理学科・普通科生徒 1年生 40名

<内容>

- ・「東南アジアにおける国連開発計画 (UNDP)、アジア開発銀行 (ADB) の支援を学ぶ」
講師：元国連開発計画 開発政策局長 西本昌二先生
*この課題研究については、1年の前半を「国際人としての理念を学ぶ」、後半を「Logical Framework」という名称で実施した。

・「Introduction to Business」

講師：ヒューマン国際大学機構 外国人講師2名

・企業訪問(夏季休業中) 企業・行政機関など8カ所

②「Creative Solutions II」(2単位) 選択授業 文理学科・普通科生徒 2年生 40名

<内容>

「BOP ビジネスを用いた地域開発」

講師：元国連開発計画 開発政策局長 西本昌二先生、日本政策金融公庫 向笠大樹氏、

③「Creative Solutions III」 選択授業 文理学科・普通科生徒 3年生 38名

<内容>

海外留学希望者への指導、国公立大学および私立大学推薦入試の指導

担当：本校教諭(進路指導部、英語科、社会科)

2) SGH 特別講義 (SGH core program 選択者および選択者以外の希望者対象)

<内容および活動一覧>

平成29年度SGH特別講義

平成	月	日	曜日	内容	講師	対象	参加数
1	29	4	25	火	「ビジネスプランの作り方」	日本政策金融公庫 向笠大樹様	2年生 40
2	5	30	火	「ice breakingワークショップ」	大阪教育大学 田中満公子先生	1年生 40	
3	7	18	火	「グローバルリーダーになるために～世界の中の日本」	大阪大学 小倉基次先生	1年生 100	
4	6	17	土	「インタビューの方法と心得講座」	神戸大学 瀧本善斗様	1年生 40	
5	11	13	月	「NPO/NGOと国際協力1」	関西学院大学 西野桂子先生	1年生 40	
6	11	26	日	「異文化コミュニケーション」	京都大学 河野泰之先生	2年生 40	
7	12	20	水	「プレゼンテーション講座」	アンバーサリーボイス代表 東 大悟様	1・2年生 120	
8	12	25	月	「ITの利用で世界規模で変革する教育の可能性」	京都大学 喜多一先生、飯吉透先生	1年生 40	
9	30	2	5	月	「NPO/NGOと国際協力2」	関西学院大学 西野桂子先生	1年生 40
10	2	11	日	「難民の問題を考える」	京都大学 河野泰之先生	1年生 40	
11	3	7	水	「人間活動と自然環境の調和ある地域開発」	京都大学 河野泰之先生他	1年生 40	

2. SGH open program

① 「Creative Solutions I」 (1単位) 文理学科1年生160名対象

<内容>

課題研究のための基本講座(小論文の読み方・書き方、パワーポイントの使い方、ディベート、論理的思考、クリエイティブになる方法)

担当: 本校職員(国語科、社会科、理科、英語科)

② 「Creative Solutions II」 (1単位) 文理学科2年生160名対象

<内容>

各教科の指導のもと課題研究を行い、発表

担当: 本校教員(国語科、社会科、英語科、理科、数学科、保健体育科)

③SGH 特別講義を open program として実施(1、2年希望者対象)

<内容>

- ・1の2) SGH 特別講義のうち、本校で実施したもの
- ・大阪府立大学主催「高校生起業家育成講座」 2年生1名、1年生3名 計4名参加

3. 海外フィールドワーク

1) フィリピンフィールドワーク

三国丘高校 SGH プログラムの柱の1つである「発展途上国の現状を学ぶ」ため、フィリピン・マニラ市にて今年度で3回めとなるフィールドワークを実施した。アジア開発銀行での研修を通して世界の発展途上国への支援活動、日本とフィリピンの経済的なつながりを学ぶとともに、ごみ山の視察などを通して貧困層の生活を肌で感じた。また、エンドラン大学の大学生とバディを組み、社会企業家を育てフィリピンの発展をめざす GK Farm での宿泊研修を含む5日間を共にし、一緒にビジネスプランを考えることで、SGH プログラムの目標である BOP ビジネスプランを構築するとともに英語力の向上をめざした。

<実施日> 平成29年7月30日(日)～8月6日(日)

<参加者> SGH core program 受講者の中から2年生20名

<付添教員> 5名 元国連開発計画 開発政策局長 西本昌二先生、
本校教諭 大塚雅之、柿本早紀、田中洋平、田中和代

- 1 フィリピンフィールドワークは全体としてどうでしたか。
- 2 アジア開発銀行での研修はどうでしたか。
- 3 Payatas視察はどうでしたか。
- 4 GK Farmにおける研修はどうでしたか。
- 5 Enderun大学生とのBuddy Systemはどうでしたか。
- 6 Endurun大学でのプレゼンテーションはどうでしたか。
- 7 ホテルはどうでしたか。
- 8 食事はどうでしたか。

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
95%	5%	0%	0%
42%	53%	5%	0%
26%	68%	5%	0%
84%	16%	0%	0%
100%	0%	0%	0%
26%	37%	37%	0%
89%	11%	0%	0%
47%	53%	0%	0%

また、今年度はじめてエンドラン大学の学生 15 名が来日し、本校生徒と workshop を行う予定である（平成 30 年 3 月 25 日～30 日）。エンドラン大学の学生は「Leadership Program」という授業の一環で本校と共同研修を行っており、本校の SGH 活動が外国の大学のカリキュラムの一部となり相互訪問ができることは大変光栄であり、生徒のグローバルな学びをさらに深めることができる場として貴重である。

2) 米国リーハイ大学の視察

昨年高校生ビジネスプラン・グランプリ（日本政策金融公庫主催）で SGH Core Program を受講している 2 年生の班が全国優勝を果たしたことから、アメリカ総領事館より米国ペンシルバニア州にあるリーハイ大学をご紹介いただいた。リーハイ大学は毎年夏にアメリカおよび世界から集まった高校生を対象に起業家講座「Global Entrepreneurship」を開講しており、それをもとに平成 30 年夏より本校のためだけの 1 週間のプログラムを実施して下さることになった。その準備のためリーハイ大学を訪ね、講座の視察および打ち合わせを行った。

<実施日> 平成 29 年 7 月 5 日（水）～7 月 9 日（日）

<参加者> 本校教諭 田中和代、山脇龍郎

2 成果の公表・普及

1. 生徒による課題研究発表

1) 校内発表

①留学生を招待しての英語ポスター発表

<実施日> 平成 29 年 4 月 29 日（土）

<会場> 大阪府立三国丘高等学校 多目的ホール

<発表者> SGH core program 受講者 2 年生 40 名、1 年生 40 名

<参加者> 大阪日本語センター所属の外国人留学生 37 名（12 か国）

②1 年生課題研究発表会

<実施日> 平成 29 年 11 月 26 日（日）

<会場> 大阪府立三国丘高等学校 国際交流センター

<発表者> SGH core program 受講者 1 年生 40 名

<参加者> 大学教授 1 名、運営指導委員 1 名、大阪府教育庁 1 名

見学者（大学教授、企業、保護者、中学生等）32 名、本校 2 年生 40 名

③2 年生課題研究発表会

<実施日> 平成 30 年 2 月 11 日（日）

<会場> 大阪府立三国丘高等学校 多目的ホール

<発表者> SGH core program 受講者 2 年生 40 名

<参加者> 大学教授 2 名、運営指導委員 2 名、大阪府教育庁 1 名

見学者（大学教授、企業、保護者、中学生等）40 名、本校 1 年生 40 名

*運営指導委員会

1年生課題研究発表会および2年生課題研究発表会に合わせ、運営指導委員会を管理機関により開催。

2) 校外発表

①大日本除虫菊株式会社研究所 課題研究発表および視察

<実施日> 平成29年5月25日(金)

<発表者> SGH core program 受講者 2年生7名

②大阪教育大学附属高等学校平野校舎招待発表

<実施日> 平成29年12月16日(土)

<発表者> SGH core program 受講者 2年生6名

③堺ロータリークラブ例会にて課題研究発表

<実施日> 平成30年3月22日(木)

<発表者> SGH core program 受講者 2年生3名

3) 海外発表

<実施日> 平成29年8月5日(土)

<会場> エンドラン大学(フィリピン・マニラ市)

<発表者> フィリピンフィールドワーク参加者2年生20名

2. 教員による開発研究発表

①SGH連絡協議会・分科会での発表

<実施日> 平成29年6月16日(金)

<会場> 筑波大学文京校舎

<発表者> 首席/SGH研究主任 田中和代

<参加者> 76名

<内容> ルーブリックを使わない生徒評価について

②帰国子女教育を考える会での発表

<実施日> 平成29年6月3日(土)

<会場> 立命館中学校・高等学校

<発表者> 首席/SGH研究主任 田中和代

<参加者> 約40名

<内容> SGHの取組について

3. 広報等

1) 国内

- ・学校HPにSGH専用バナーを設け、随時活動を掲載した。また、SGH公式HPも活用した。
- ・本校主催および他機関主催の中学生向けの学校説明会(年間30回実施)では、本校のSGH活動について詳しい説明を行った。
- ・大阪企業家ミュージアムにおいて、「次代を担う企業家応援企画」として、2年生成成のBOPビジネスプランがパネル展示された。(平成29年2月24日~5月31日)
- ・近隣小中学生と合同で行う防災宿泊研修(平成29年10月28日~29日、参加生徒:小中高校生26名、小中高教員20名)において、SGH core program 受講者が³の③で作成したSGH防

災かるたを使用して防災研修を行った。小学校の先生方から好評をいただき、小学生の防災の授業で SGH 防災かるたを使用してもらっている。

- ・ SGH core program 受講生 1 年 40 名が 8 カ所の企業等で取材を行い、その際 SGH について説明した。また、同 2 年生も BOP ビジネスプラン作成において 24 カ所の企業や大学等に訪問や取材を行い、SGH について説明を行った。

2) 国外

- ・ 英語版 HP を作成し、更新を行った。
- ・ フィリピンや米国での訪問先で SGH の説明を行った。

3) コンテストや発表会等への参加

- ①スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム（文部科学省・筑波大学共催）
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 11 月 25 日（日）
 - ＜会 場＞ 横浜パシフィコ
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 2 年生 4 名 *審査委員長賞受賞
- ②第 5 回高校生ビジネスプラン・グランプリ（日本政策金融公庫主催）
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 10 月～1 月
 - ＜参加者＞ SGH core program 受講者 2 年生 40 名
 - *入賞（全国ベスト 100 入り）1 班（7 名） 応募総数 3,247 件 385 校
- ③第 1 回高校生ビジネスコンテスト STEP2017（堺高石青年会議所主催）
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 7 月 30 日
 - ＜参加者＞ SGH core program 受講者 1 年生 3 名
 - *特別賞受賞（第 2 位）
- ④SGH 甲子園（関西学院大学主催）
 - ＜実施日＞ 平成 30 年 3 月 24 日（土）
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 2 年生 13 名
- ⑤京都大学東南アジア研究所「アジアの防災コミュニティ形成」国際会議併設企画
日本と東南アジアに共通の課題を考える高大連携国際ワークショップ
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 8 月 5 日（土）
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 3 年生 2 名
- ⑥大阪教育大学附属高等学校平野校舎招待発表
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 12 月 16 日（土）
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 2 年生 6 名
- ⑦高校生ビジネスプラン・グランプリ南近畿地区表彰式（日本政策金融公庫主催）
 - ＜実施日＞ 平成 29 年 12 月 26 日（火）
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 2 年生 7 名
- ⑧高校生ビジネスプラン・グランプリ南近畿地区プランセッション（日本政策金融公庫主催）
 - ＜実施日＞ 平成 30 年 1 月 28 日（日）
 - ＜発表者＞ SGH core program 受講者 2 年生 33 名
- ⑨2017 年度筑波-香港大学グローバルリーダーズ・プログラム（筑波大学附属学校教育局主催）
 - ＜実施日＞ 平成 30 年 3 月 21 日（水・祝）～3 月 29 日（木）
 - ＜参加者＞ SGH core program 受講者 2 年生 1 名

7 目標の進捗状況、成果、評価

アウトカムの目標の進捗状況としては、指定4年め以降に記入する項目に関しては、平成29年3月にSGH指定後はじめて卒業生が出たばかりで、浪人生がいることや大学生であっても1年生であることから、まだ成果について十分測定できていない。しかし、大学入学後ボランティア部に所属し、夏にはフィリピン・マニラ市からバスで10時間の田舎で2週間様々なボランティア活動をした者がいたり、高校時代にお世話になったホームステイ先で1カ月過ごして英語の上達をめざした者がいたり、積極的に活動し有意義に大学生活を送っているようだ。引き続き卒業後の様子を見守るとともに、後輩の指導も行ってもらうことを予定している。

アウトプットの方は、指導体制が確立されてきたことにより課題研究に取り組む生徒が増え、また、国内外の大学や企業との連携も深まり、SGH指定校として充実した取組を行うことができるようになってきた。グローバルリーダーを育成する学校として、指定期間終了後も引き続き有意義な取組を継続できるよう更に体制を整えたい。

<添付資料> 目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

来年度はリーハイ大学（米国ペンシルバニア州）との提携が始まり、リーハイ大学での研修及びニューヨーク市での国連本部やニューヨーク証券取引所の視察を予定している（生徒30名参加予定）。1年めは想定外のことも起こる可能性があるが、現地スタッフとも密にコミュニケーションを図り、継続的な実施をめざしてしっかりと成果をあげたい。

【担当者】

担当課	教育振興室高等学校課	T E L	06-6946-2387
氏 名	香月 孝治	F A X	06-6944-6888
職 名	主任指導主事	e-mail	KatsukiKo@mbox.pref.osaka.lg.jp

平成 29 年度大阪府立三国丘高等学校 SGH 課題研究授業 (Creative Solutions I II III)

	1 年生	2 年生	3 年生
4 月	1 年生対象説明会	SGH 特別講義 「ビジネスプランの作り方」 日本政策金融公庫 評価 FEEDBACK	英語ポスター発表準備 評価 FEEDBACK
5 月	ice breaking ワークショップ 「国際人としての理念を学ぶ」(西本昌二先生) スタート	BOP ビジネスプラン作成	英語ポスター発表 (留学生対象)
6 月	「国際人としての理念を学ぶ」(西本昌二先生)	BOP ビジネスプラン作成	海外留学セミナー
7 月	SGH 特別講義 「グローバルリーダーになるために～世界の中の日本/imec について～」 大阪大学 小倉基次先生 韓国・慶山高校と交流 第 1 回高校生ビジネスコンテスト STEP2017 (堺高石青年会議所主催)	BOP ビジネスプラン作成 フィリピンフィールドワーク準備	海外留学サポート
夏季休業中	「ゆたかな社会」を読む インタビュー体験 (行政、企業等) NGO について調べ学習 高校生起業家教育講座 (大阪府立大学主催) 参加	フィリピンフィールドワーク (ADB での講義、エンドラン大学生と社会起業家育成農園にて合宿、BOP ビジネスプラン発表) 高校生起業家教育講座 (大阪府立大学主催) 参加	京都大学東南アジア地域研究研究所主催フォーラム参加 海外留学サポート 推薦入試サポート
9 月	SGH 特別講義 「NPO について学ぶ」 関西学院大学 西野桂子先生 「Logical Framework」スタート	BOP ビジネスプラン作成	海外留学サポート 推薦入試サポート
10 月	「Introduction to Business」英語授業スタート 課題研究発表準備	高校生ビジネスプラン・グランプリ (日本政策金融公庫主催) 応募 課題研究発表準備	海外留学サポート 推薦入試サポート
11 月	1 年生課題研究発表会 (第 1 回運営指導委員会)	SGH 全国高校生フォーラム参加	海外留学サポート 推薦入試サポート
12 月	SGH 特別講義 「高校生のためのプレゼン講座」 Anniversary Voice 代表 東大悟先生 京都大学集中講義 「IT の利用で世界規模で変革する教育の可能性」 京都大学 喜多一先生、飯吉透先生	課題研究発表会準備 高校生ビジネスプラン・グランプリ結果発表	海外留学サポート 推薦入試サポート
1 月	課題研究発表準備	課題研究発表準備 大阪教育大学附属平野校舎招待発表	海外留学サポート 推薦入試サポート
2 月	課題研究発表会	2 年生課題研究発表会 (第 2 回運営指導委員会)	海外留学サポート 推薦入試サポート
3 月	京都大学集中講義 「多様な考えーグローバルな場でのコミュニケーションのために」 京都大学 河野泰之先生他 「人間の安全保障」を読む	SGH 甲子園 (関西学院大学主催) にて課題研究発表	修了式

1 本校の SGH カリキュラムについて

1. 研究開発名

「持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム」

2. 研究開発概要

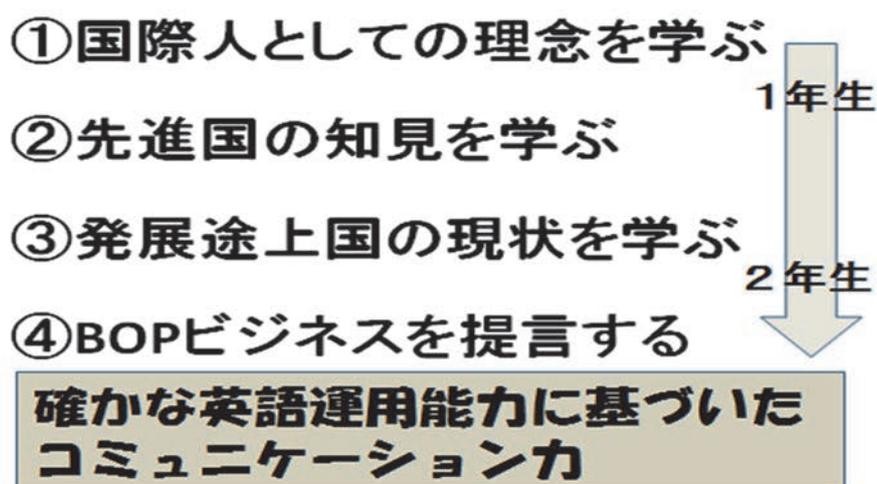
地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する、「創造的課題解決能力」を持つグローバルリーダーを育成するにあたり、「持続可能な地域開発」を統一テーマに Action Plan を作成、提言する。TOPIC STUDY レベル 1 では、課題研究の知見を深めるため人材育成研究分野、最新ビジネスモデル研究分野、国際支援研究分野を全員で学ぶ。TOPIC STUDY レベル 2 では、「BOP ビジネスを用いた地域開発」、「人間活動と自然環境の調和ある地域開発」、「Sustainable Business and the Environment」の 3 つの課題研究において Action Plan を班別に作成する。課題研究においては現地でのフィールドワークや学校交流等を行い、多様性を理解し、日本人らしい思いやりの心と高いメンタリティを持って問題解決策を遂行する、グローバルリーダーとしての資質を身につける。

3. カリキュラム内容

(1) 教育課程の編成

本校では、学校設定科目「探究」における「Creative Solution（以下 CS）I II III」において課題研究授業を実施している（文理学科 1、2 年 320 名は CS I II 必修、CS III は選択授業。普通科は希望者が CS I II III 受講可能）。その中で、SGH は Core program と Open program を開講し、Core program 選択者は各学年 40 名とし、以下のプログラムを実施する。

*平成 29 年教育課程表 P17～22



1 年次には、「①国際人としての理念を学ぶ」「②先進国の知見を学ぶ」を中心に、2 年次には、「③発展国の現状を学ぶ」「④BOP ビジネスを提言する」を中心に学び、課題研究を実施する。3 年次には、海外留学や SGH 活動を生かした推薦入試などをめざす生徒の指導を行う。

2 活動内容

1. 1年次の活動

(1) 「国際人としての理念を学ぶ」 「Logical Framework」

講師：元国連開発計画 開発政策局長 西本昌二先生
本校社会科教諭

11月の1年生課題研究発表会では、「西本先生の授業で学んだこと」として、リーダーシップ、国際支援、理念とは何かなどについて発表。また、初の試みとして、討論「日本は難民を受け入れるべきか」を実施。2月の1年生課題研究発表会では、現代の問題であるフードバンク、シャッター街、千早赤阪村の過疎問題、ひきこもりに焦点を当てて問題の分析を行い、発表を行った。

(2) 「Introduction to Business」ネイティブ講師によるビジネスの基礎講座

平成30年度より開始するリーハイ大学（米国ペンシルバニア州）での研修「Global Entrepreneurship」に備え、ビジネスの基礎を英語で学ぶ。11月の1年生課題研究発表会では、Business Environment and Global Trading Forces、Case studiesについて、2月の1年生課題研究発表会では、Marketing と Case Studies について発表を行った。



(3) その他の課題

<夏季休業中>

- ・「ゆたかな社会」（ガルブレイス著）を読みレポートを書く
- ・NGO/NPOについて調べ、レポートを書く
- ・企業、行政機関等を訪問し、取材する

今年度訪問先：三起商行株式会社（ミキハウス）、ハックベンチャーズ、株式会社ユニクロ、
宇宙開発協同組合 SOHLA、大阪管区气象台、堺市産業振興センター、堺
市役所都市計画部、大阪市立科学館

- ・第1回高校生ビジネスコンテスト STEP2017（堺高石青年会議所主催）
- ・高校生起業家育成講座（大阪府立大学主催）

<冬季休業中>

- ・「ウェブで学ぶ」（京都大学 飯吉透教授著）を読み特別講義に備える

<春季休業中>

- ・「人間の安全保障」（アマルティア セン著）を読みレポートを書く
- ・BOP ビジネスプラン準備

2. 2年次の活動

(1) 発展途上国の現状を学ぶ

フィリピン・マニラ市にて今年度で3回目となるフィールドワークを実施した。アジア開発銀行での研修を通して世界の発展途上国への支援活動、日本とフィリピンの経済的なつながりを学ぶとともに、ごみ山の視察などを通して貧困層の生活を肌で感じた。また、エンドラン大学の大学生とバディを組み、社会起業家を育てフィリピンの発展をめざす GK Farm での宿泊研修を含む5日間を共にし、一緒にビジネスプランを考えることで、SGHプログラムの目標である BOP ビジネスプランを構築するとともに英語力の向上をめざした。

*詳細な報告書は P23～29

(2) BOP ビジネスプランを提言する

フィリピンフィールドワークで学んだことをもとに、フィリピンの貧困層の人々（BOP）の生活を改善しつつビジネスとしても成り立つプランを作成し、提言する。今年も6班がそれぞれプランを作成し、高校生ビジネスプラン・グランプリ（日本政策金融公庫主催）に応募するとともに、様々な発表会でプレゼンテーションを行った。プラン作成時には、大学や企業に取材を行い、助言を得た。



3 国内海外研修

1. 国内

京都大学、本校等で年間 11 回の特別講義を実施

平成29年度SGH特別講義

	平成	月	日	曜日	内容	講師	対象	参加数
1	29	4	25	火	「ビジネスプランの作り方」	日本政策金融公庫 向笠大樹様	2年生	40
2		5	30	火	ice breakingワークショップ	大阪教育大学 田中満公子先生	1年生	40
3		7	18	火	「グローバルリーダーになるために～世界の中の日本」	大阪大学 小倉基次先生	1年生	100
4		6	17	土	「インタビューの方法と心得講座」	神戸大学 瀧本善斗様	1年生	40
5		11	13	月	「NPO/NGOと国際協力1」	関西学院大学 西野桂子先生	1年生	40
6		11	26	日	「異文化コミュニケーション」	京都大学 河野泰之先生	2年生	40
7		12	20	水	「プレゼンテーション講座」	アンバーサリーボイス代表 東 大悟様	1・2年生	120
8		12	25	月	「ITの利用で世界規模で変革する教育の可能性」	京都大学 喜多一先生、坂吉透先生	1年生	40
9	30	2	5	月	「NPO/NGOと国際協力2」	関西学院大学 西野桂子先生	1年生	40
10		2	11	日	「難民の問題を考える」	京都大学 河野泰之先生	1年生	40
11		3	7	水	「人間活動と自然環境の調和ある地域開発」	京都大学 河野泰之先生他	1年生	40

2. 海外

フィリピンフィールドワーク 平成 29 年 7 月 30 日～8 月 6 日 (7 泊 8 日)

*詳細な報告書は P23～29

4 国内外の大学や企業、国際機関との連携

1. 国内

- ・大学 京都大学、大阪大学、大阪府立大学、関西学院大学、摂南大学
- ・企業 大日本除虫菊株式会社 (金鳥)、三起商行株式会社 (ミキハウス)、ハックベンチャーズ、株式会社ユニコロ、久保養蜂園、UHA 味覚糖、ノーベル製菓、清和肥料工業株式会社、株式会社ココウェル、サラヤ株式会社、エスケー石鹸株式会社、大江工業株式会社、株式会社ルバンシュ、ミュゼ株式会社、株式会社マスター、イオン株式会社、花王株式会社、P&G 株式会社、大塚製菓
- ・行政機関 米国総領事館、フィリピン総領事館、フィリピン観光省、堺市

2. 海外

- ・国際機関 アジア開発銀行
- ・大学 エンドラン大学 (フィリピン)、リーハイ大学 (米国ペンシルバニア州)
 - *米国総領事館のご協力により、平成 30 年度よりリーハイ大学との提携を開始し、7 月末から 8 月上旬にかけて 1 週間、「Global Entrepreneurship (仮題)」という本校向けの研修を実施していただけることになった。リーハイ大学は、毎年夏に全米および世界中から高校生を 70 名ほど集め、1 か月間の起業家講座を実施していることから実現した。リーハイ大学は準アイビーといわれる名門大学で、生徒たちは寮に滞在しながら講義を受けたり、課題研究発表を行ったりする予定だ。また、ニューヨーク市も近いことから、国連本部やニューヨーク証券取引所の視察も行い、様々な知見を得る。

5 外国語教育

本校では 1 年次から英語外部試験受験を想定した 4 技能型の授業を実施するなど英語教育に注力しているが、SGH の活動では「Introduction to Business」という経済学に精通したネイティブスピーカーのオールイングリッシュの授業を取り入れるなど積極的に英語を使用する環境を取り入れている。また、国内外で英語で課題研究発表を行ったり交流を行ったりして、英語を道具として使う意識を持たせている。SGH のカリキュラムを通して海外進学も視野に入れる生徒が増え、平成 28 年度 2 名 (米国)、平成 29 年度 3 名 (オランダ 1 名、米国 2 名) が海外の大学へ進学している。

6 評価について

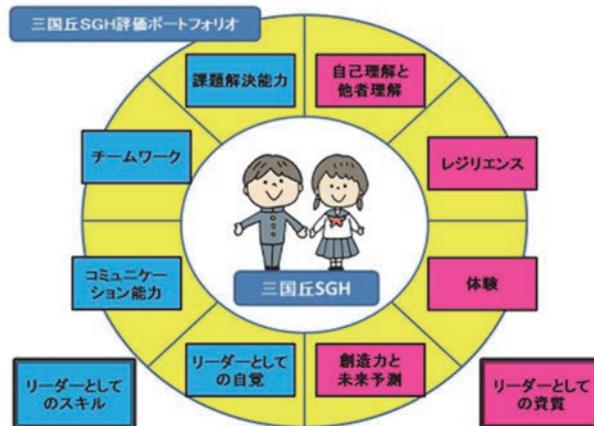
1. ルーブリックについて

課題研究については発表会などでルーブリックを用いて評価し、生徒にフィードバックを行っている。 *ルーブリックの資料は P30

2. 相互評価ポートフォリオについて

生徒たちの成長や日頃の活動を評価するため、生徒自身の自己評価と生徒同士の相互評価を用いた「評価ポートフォリオ」を開発した。開発にあたっては、マッキンゼー・アンド・カンパニーの評価方法を参考とし、同社やインターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢で評価にかかわる仕事を歴任された甚上直子先生に監修を担当していただいた。

(1) 本校のSGH活動の目標



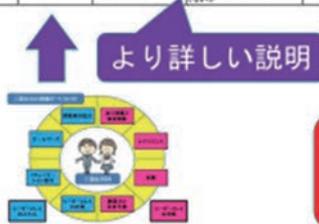
(2) 自己評価

目標を表にした紙に、自分が日頃の活動で「力がついた」あるいは「あまり力がつかなかった」と思う項目について、具体的な例を挙げて記入していく。そのとき、すべての項目について記入せず、印象に残っている具体例がある項目だけ記入させる。

大塚和倉三國丘高等学校SGH 評価ポートフォリオ			大塚和倉三國丘高等学校SGH 評価ポートフォリオ		
＜自己評価＞			＜他者評価＞		
項目	内容	自己評価	項目	内容	他者評価
1 課題解決能力	探究活動	探究活動を通じて、課題解決能力が向上した。	2 自己理解と他者理解	自己理解	自己理解が深まった。
	ボランティア	ボランティア活動を通じて、課題解決能力が向上した。		他者理解	他者理解が深まった。
	リーダーとしてのスキル	リーダーとしてのスキルが向上した。		リーダーとしての資質	リーダーとしての資質が向上した。
3 チームワーク	探究活動	探究活動を通じて、チームワークが向上した。	4 レジリエンス	レジリエンス	レジリエンスが向上した。
	ボランティア	ボランティア活動を通じて、チームワークが向上した。		体験	体験が向上した。
	リーダーとしてのスキル	リーダーとしてのスキルが向上した。		創造力と未来予測	創造力と未来予測が向上した。
5 コミュニケーション能力	探究活動	探究活動を通じて、コミュニケーション能力が向上した。	6 リーダーとしての自覚	リーダーとしての自覚	リーダーとしての自覚が向上した。
	ボランティア	ボランティア活動を通じて、コミュニケーション能力が向上した。		リーダーとしてのスキル	リーダーとしてのスキルが向上した。
	リーダーとしてのスキル	リーダーとしてのスキルが向上した。		創造力と未来予測	創造力と未来予測が向上した。
7 リーダーとしてのスキル	探究活動	探究活動を通じて、リーダーとしてのスキルが向上した。	8 リーダーとしての資質	リーダーとしての資質	リーダーとしての資質が向上した。
	ボランティア	ボランティア活動を通じて、リーダーとしてのスキルが向上した。		自己理解と他者理解	自己理解と他者理解が向上した。
	リーダーとしてのスキル	リーダーとしてのスキルが向上した。		レジリエンス	レジリエンスが向上した。

生徒記入欄
(必ず横に具体的な事例を書かせる)
自己評価と他者評価は色をかえて記入

感想記入欄



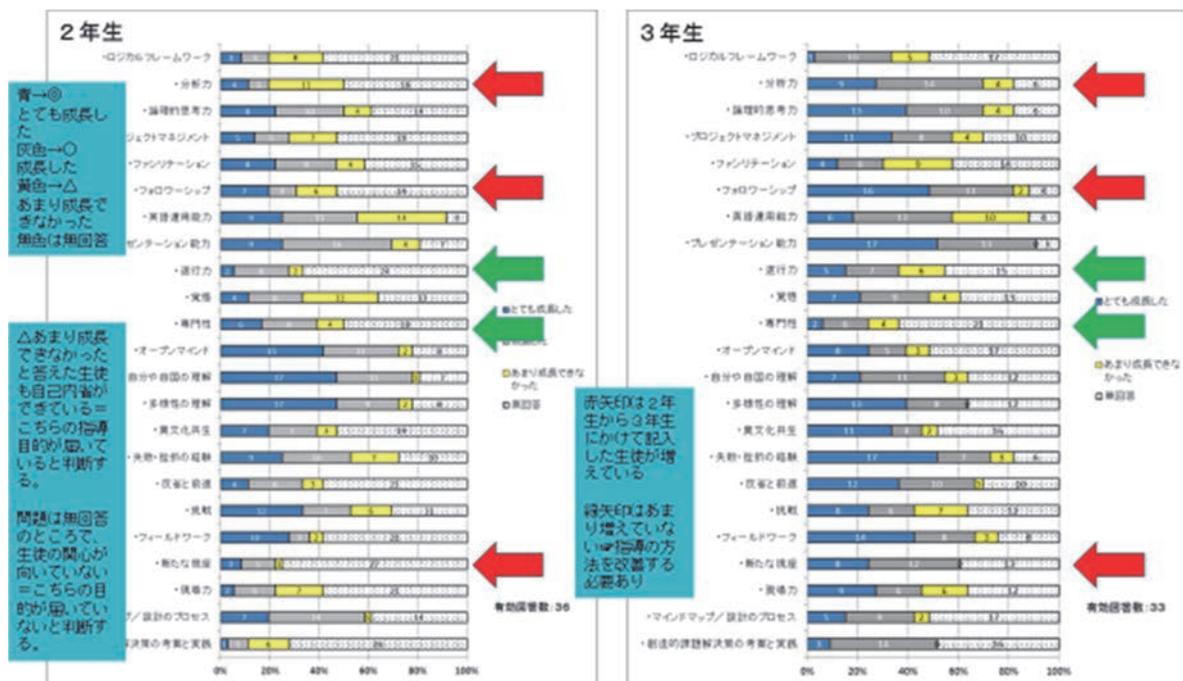
自分が◎○△をつけたい欄だけ書かせる
(全部書かせない)

(3) 相互評価とコミュニケーション指導

課題研究の班のメンバーで、それぞれの項目に関して秀でているところや改善してほしいところなどを話し合う。他者の評価は、自己評価の表に、別の色で記入し、自己評価と他者評価を比較することができるようにする。また、改善してほしいところに関しては伝え方が難しいので、伝え方のポイントをデモンストレーションで示す。また、伝え方がうまくいっていないときの相

手の反応（防御反応）などを紹介して、相手の反応に留意するよう指導する。将来、多国籍・異文化のチームメイトと仕事をするときにリーダーシップが発揮できるよう、コミュニケーション術を学ぶ一助とする。

(4) カリキュラムの振り返り



生徒の回答した項目、回答しなかった項目の統計を取り、生徒がどの項目を意識しているか、力がついたと感じているかなどを分析した。また、2年生と3年生の回答率を比べることで、経年変化も分析した。生徒があまり記入しなかった項目は、カリキュラムの意図や育成したい力について、カリキュラムが理解されていないまたは認知されていない可能性があり、改善しなければならない。

評価ポートフォリオについては、平成29年6月16日（金）筑波大学文京校舎におけるSGH連絡協議会・分科会で「ルーブリックを使わない生徒評価について」という題で発表した（聴講者67名）。生徒の評価については悩んでいる先生方が多いようで、大変参考になったという感想を多くいただいた。*評価ポートフォリオに関する資料は P31～34

また、経年変化をみるために、定期的にアンケートを実施し生徒の意識把握に努めている。生徒は、学年が上がるにつれ、国際機関の役割や東南アジアへの理解が深まり、国際社会で活躍したいという気持ちが高まるとともに、探究力やプレゼンテーション力が高まっていると感じていることがわかる。*生徒アンケートに関する資料は P35～38

7 仮説の検証

本校は、SGH 指定時次のような仮説を立てた。

「創造的課題解決能力」を持つグローバル人材を育成することが本校の目的であり、以下のことが充足されればその目的が達成されるという仮説を設定する。

- 1) 文化・政治・人口問題等幅広い課題を設定し研究してきたが、今後は国際社会が直面している緊急の課題をテーマとして設定することで、世界に貢献する有益な Action Plan を作成することができる。

- 2) 専門性を持つ大学教員による指導、また国際機関・先進的企業・NPOでの実務経験のある人材からの指導を受ければ、信頼できる情報をもとに比較分析を行い有益な **Action Plan** を作成することができる。
- 3) グローバルな視点を持つリーダーを育てるためには、フィールドワーク、特に海外でのフィールドワークが必要である。現地に精通し、しかるべき組織・学校と連携できる専門家のもとで実体験を重ねることにより、グローバルな視点から見ても有益な **Action Plan** を作成することができる。

これらの仮説に対して本校は、この4年間、以下のように体系的に仮説を検証してきた。

- 1) BOP ビジネスプラン（発展途上国の貧困層の人々の生活を改善しながらビジネスとしても成立するプラン）作成および提言を課題研究のテーマとして設定する
- 2) 大学や国際機関、企業でご活躍されている方々を講師に招き、特別講義を実施する
- 3) 米国・フィリピンの大学と提携し、先進国や発展途上国でフィールドワークを実施することでその現状を肌で感じるとともに知見を広め、課題研究をより深める

これらの活動の結果、コンテストでの優勝や様々な賞の受賞など成果をあげてきた。本校のプログラムを参考にしてくださる学校も多くあり、未来のグローバルリーダーを育成するメソッドがある程度確立されてきたと感じる。また、はじめは探究活動の指導は未経験の教員も多かったが、生徒の成長に必要な段取りや指導法や評価方法も蓄積され、SGH以外の探究活動も充実してきており、多方面で評価されてきている（平成27年度および29年度大阪府GLHS課題研究発表会にて大阪大学賞受賞）。何よりも生徒の変容に著しいものがあり、2年次、3年次、4年次と飛躍的に行動力や論理的思考力が高まり、そして何より大切なメッセージとして伝えている「失敗して学ぶ」という経験を積み重ねている。生徒の進路選択にも大きな影響を与えており、海外進学や日本の大学・大学院の学びにとどまらず、自分の個性を活かして社会をリードしていきたい分野を真剣に考えて選択しており、頼もしさを感じる。彼らにとってグローバルに考えることはもはや当たり前であるが、当初より本校が大切にしてきた「国際理念」という信条が彼らに根付き、将来様々な場面で判断を迫られる際、よりどころとなると確信する。来年度は、米国オレゴン州ポートランド市で続けてきた環境と都市開発の学びから、米国東海岸にあるペンシルバニア州およびニューヨーク市での活動が始まる。高校生にどのようなインパクトを与え、成果が出るのかを楽しみに全力で臨みたいと思う。



フィリピンにてエンドラン大学生と



SGH 全国高校生フォーラム

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程文理学科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

Table with columns for '入学年度' (27), '教科' (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 保健体育, 芸術, 外国語, 家庭, 情報, 三丘学, 高大連携講座), '科目' (国語総合, 現代文B, 古典B, 世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B, 現代社会, 倫理, 政治・経済, 数学I, 数学II, (学)数学演習, 物理基礎, 物理, 化学基礎, 化学, 生物基礎, 生物, 地学基礎, 体育, 保健, 音楽I, 美術I, 書道I, コミュニケーション英語I, 家庭基礎, 情報の科学, (学)三丘スタディツアー, (学)三丘スタディハード, (学)三丘ドクター, (学)大学各講座科目名, 総合英語, 英語理解, 英語表現, 異文化理解, (学)英語演習, (学)英語演習I, (学)英語演習II, (学)SS数学I, (学)SS数学II, (学)SS数学III, (学)SS数学A, (学)SS数学B, (学)SS数学C, (学)SS数学演習, (学)SS物理, (学)SS化学, (学)SS生物, (学)言語文化演習, (学)Creative Solutions I, (学)Creative Solutions II, (学)Creative Solutions III), '単位数' (I, II, III, 計), and '備考'.

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程普通科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

教科	科目\標準単位数\学級数	入学年度		27				27				備考		
		類	型	文型			理型			計	計			
				I	II	(III)	I	II	(III)					
		学年												
		教科												
普通科	国語	国語総合	4	5				5				14		
		現代文B	4		3	3			2	2				
		古典B	4		3	3			3	2				
	地理歴史		世界史A	2	2				2				4	▽2より1科目選択。 B科目選択は A科目履修者に限る。
			世界史B	4			☆4				☆4		8	
			日本史A	2		2				▽2		☆4		
			日本史B	4			☆4				☆4			
			地理A	2		2				▽2		☆4		
			地理B	4			☆4				☆4			
	公民		現代社会	2		2				2			2	
			倫理	2			☆2				☆2		6	
			政治・経済	2			☆2				☆2		6	
	数学		数学I	3	4				4				9	
			数学II	4			3				○3		12	
			数学A	2	2				2					
			数学B	2		3				3				
			(学)数学演習				○2							
	理科		物理基礎	2	2		□1		2				12	□1より2科目選択。
			物理	4						★3				
			化学基礎	2	2		□1		2					
			化学	4						3				
			生物基礎	2	2		□1		2					
			生物	4						★3				
			地学基礎	2		2	□1							
	保健体育		体育	7~8	3	3	2		3	3	2		10	
			保健	2	1	1			1	1				
	芸術		音楽I	2	△2		○2		△2				2	△2より1科目選択。 II科目選択はI科目履修者に限る。
		音楽II	2		▲1	○2			▲1			3		
		美術I	2	△2		○2		△2						
		美術II	2		▲1	○2			▲1					
		書道I	2	△2		○2		△2						
		書道II	2		▲1	○2			▲1					
外国語		コミュニケーション英語I	3	4				4				17		
		コミュニケーション英語II	4		3				3					
		コミュニケーション英語III	4			4				4				
		英語表現I	2	2				2			2			
家庭		英語表現II	4		2	2			2	2				
		家庭基礎	2	2	▲1			2	▲1			2		
情報		(学)家庭演習				○2						3		
		情報の科学	2		2			2		2		2		
学		(学)三丘スタディア		#1	*1			#1	*1			0~5		
		(学)三丘スタディハート				※1	0~3			※1				
		(学)三丘ドクター							*1	※1				
学		(学)高大連携講座		0~2	0~2	0~2	0~6	0~2	0~2	0~2	0~6	0~6	(他) 大学の講座科目名で最大6単位認定。	
		大学の各講座科目名												
専門教科	英語	(学)英語演習			1							0	「英語演習I」と「英語演習II」 の同時選択不可。	
		(学)英語演習I				○2								
		(学)英語演習II				○2								
	学	SS数学	(学)SS数学II			3				3			7	
			(学)SS数学III								●4		10	
			(学)SS数学C									●3		
			(学)SS数学演習									○4		
	学	SS理科	(学)SS物理								■4		8	■4より1科目選択。 [(学)SS物理]選択は「物理」、[(学)SS生物]選択 は「生物」の履修者に限る。
			(学)SS化学								4			
			(学)SS生物									■4		
学	探究	(学)言語文化演習				○2						0~3		
		(学)Creative Solutions I		#1				#1						
		(学)Creative Solutions II			*1					*1				
		(学)Creative Solutions III				※1					※1			
教科・科目の計			33~37	33~37	31~35	97~109	33~37	33~38	31~36	97~111				
特別活動		ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3				
総合的な学習の時間			1	1	1	3	1	1	1	3			「三丘総合学習」「志(こころざし)学」	
総計			35~39	35~39	33~37	103~115	35~39	35~40	33~38	103~117				
選択の方法		#1より0~2科目選択				#1より0~2科目選択								
		*1より0~2科目選択				*1より0~3科目選択								
		▲1より1科目選択				★より1科目選択								
		☆より8単位選択				▲1より1科目選択								
		○2より2科目選択				☆より4単位選択								
		※1より0~2科目選択				○3+○4または●4+●3選択								
						※1より0~3科目選択								

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程文理学科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

教科	科目	標準単位数	学級数	28								備考			
				文科				理科							
				I	(II)	III	計	I	(II)	III	計				
普通 教科	国語総合	4		5				17	5				14	B科目選択はA科目履修者に限る。	
	国語	現代文B	4		3	3				2	2				
		古典B	4		3	3				3	2				
	地理歴史	世界史A	2		2				10	2					4
		世界史B	4				☆4					☆4			8
		日本史A	2		2				14		▽2				
		日本史B	4				☆4					☆4			
		地理A	2		2						▽2				
		地理B	4				☆4					☆4			
	公民	現代社会	2		2				2	2					2
		倫理	2				☆2		6			☆2			6
		政治・経済	2				☆2					☆2			
	数学	数学I	3						3						0
		数学II	4				3		5			○3			3
		(学)数学演習					○2								
	理科	物理基礎	2		2		□1			2					
		物理	4								★3				
		化学基礎	2		2		□1		10	2		3			12
		化学	4												
		生物基礎	2		2		□1			2					
生物		4								★3					
保健体育	体育	7~8		3	3	2		10	3	3	2		10		
	保健	2		1	1				1	1					
芸術	音楽I	2		△2				2	△2				2		
	美術I	2		△2					△2						
	書道I	2		△2					△2						
外国語	コミュニケーション英語I	3					0					0			
家庭	家庭基礎	2			2		2		2			2			
情報	情報の科学	2					0					0			
三丘学	(学)三丘ステイハート					※1		0~1			※1		0~2		
	(学)三丘ドクター									*1	※1				
学 高大連携講座	(学)大学の各講座科目名		0~2	0~2	0~2		0~6	0~2	0~2	0~2		0~6			
専 門 教 科	英語	総合英語 2~16		3				18	3				17		
		英語理解 2~8			2	4				2	2	4			
		英語表現 2~10		2	2	2				2	2	2			
		異文化理解 2~6		1	1					1	1				
		(学)英語演習			1										
		(学)英語演習I					○2								
	(学)英語演習II					○2									
	学 S S 数学	(学)SS数学I		4					12	4				16	
		(学)SS数学II			3						3			19	
		(学)SS数学III										●4			
(学)SS数学A			2						2						
(学)SS数学B				3						3					
学 S S 理科	(学)SS数学C										●3				
	(学)SS数学演習										○4				
	(学)SS物理							0			■4		4		
学 探究	(学)SS化学										4		8		
	(学)SS生物										■4				
	(学)言語文化演習					○2									
	(学)CS情報		1					3~8	1				3~6		
学 探究	(学)Creative Solutions I		1, #1						1, #1						
	(学)Creative Solutions II			1, *1						1, *1					
	(学)Creative Solutions III				※1						※1				
教科・科目の計				33~36	33~36	31~35	97~107	33~36	33~36	31~35	97~107				
特別活動				1	1	1	3	1	1	1	3				
総合的な学習の時間				1	1	1	3	1	1	1	3				
総計				35~38	35~38	33~37	103~113	35~38	35~38	33~37	103~113				
選択の方法				△2より1科目選択 ☆より8単位選択 ○2より2科目選択 □1より2科目選択				△2より1科目選択 ☆より4単位選択 ★より1科目選択 ▽2より1科目選択 ○3+○4または●4+●3選択 ■4より1科目選択				選択履修科目(「三丘学」「探究」) #1より0~1科目選択 *1より0~1科目選択(*1の同時履修不可) ※1より0~2科目選択			

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程普通科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

教科	科目\標準単位数\学級数	入学年度 28												備考
		類 型		文 型				理 型				計		
		学 年	I	(II)	III	計	I	(II)	III	計				
		4												
普通科	国語	国語総合	4	5			17	5				14	B科目選択はA科目履修者に限る。	
		現代文B	4		3	3			2	2				
		古典B	4		3	3			3	2				
	地理歴史	世界史A	2	2			10	2				4		
		世界史B	4			☆4					☆4			
		日本史A	2		2				▽2					
		日本史B	4			☆4					☆4			
		地理A	2		2				▽2					
		地理B	4			☆4				☆4				
	公民	現代社会	2		2		2		2			2		
		倫理	2			☆2					☆2			
		政治・経済	2			☆2					☆2			
	数学	数学I	3	4			12	4				9		
		数学II	4			3					○3			
		数学A	2	2					2					
		数学B	2		3					3				
		(学)数学演習				○2								
	理科	物理基礎	2	2		□1	10	2				12		
		物理	4							★3				
		化学基礎	2	2		□1			2					
化学		4							3					
生物基礎		2	2		□1			2						
生物		4								★3				
保健体育	体育	7~8	3	3	2	10	3	3	2		10			
	保健	2	1	1				1	1					
芸術	音楽I	2	△2		○2	2~5	△2				2			
	音楽II	2		▲1	○2				▲1					
	美術I	2	△2		○2			△2						
	美術II	2		▲1	○2				▲1					
	書道I	2	△2		○2			△2						
	書道II	2		▲1	○2				▲1					
外国語	コミュニケーション英語I	3	4			11	4				11			
	コミュニケーション英語II	4		3					3					
	コミュニケーション英語III	4			4					4				
家庭	家庭基礎	2		2		2~5		2			2			
	(学)家庭演習			▲1	○2				▲1					
情報	情報の科学	2	2			2	2				2			
三丘学	(学)三丘スタディハード				※1	0~1				※1	0~2	選択履修		
	(学)三丘ドクター								*	※1		※1「三丘スタディハード」「三丘ドクター」の同時履修不可。		
高大連携講座	(学) 大学の各講座科目名	0~2	0~2	0~2	0~6	0~2	0~2	0~2	0~2	0~6	0~6	(他)大学の講座科目名で最大6単位認定。		
	英語表現	2	2	2		2	2	2			6	「英語演習I」と「英語演習II」の同時選択不可。		
専門教科	(学)英語演習	(学)英語演習I		1		7						6		
		(学)英語演習II			○2									
		(学)英語演習III			○2									
	SS数学	(学)SS数学II			3		3		3			7		
		(学)SS数学III								●4				
		(学)SS数学C								●3				
		(学)SS数学演習									○4			
	SS理科	(学)SS物理					0				■4	4		
		(学)SS化学									4			
		(学)SS生物									■4			
探究	(学)言語文化演習				○2	0~5					0~3			
	(学)Creative Solutions I	#1					#1							
	(学)Creative Solutions II		*					*						
教科・科目の計	33~36	33~36	31~35	97~107	33~36	33~36	31~35	97~107						
	特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3				
	総合的な学習の時間		1	1	1	3	1	1	1	3	「三丘総合学習」「志(こころざし)学」			
	総計	35~38	35~38	33~37	103~113	35~38	35~38	33~37	103~113					
選択の方法	△2より1科目選択					△2より1科目選択				選択履修科目(「三丘学」「探究」) #1より0~1科目選択 *1より0~1科目選択(*1の同時履修不可) ※1より0~2科目選択				
	▲1より1科目選択					▲1より1科目選択								
	☆より8単位選択					☆より4単位選択								
	○2より2科目選択					○3+○4または●4+●3選択								
	□1より2科目選択					★より1科目選択								
					▽2より1科目選択									
					■4より1科目選択									

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程文理学科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

Table with columns for '入学年度' (29), '教科' (Language, History, Civic, Math, Science, Physical Education, Art, Foreign Language, Home, Information), '科目' (e.g., Japanese, World History, Math I, Physics), and '単位数' (credits). Includes a '備考' (Remarks) column with specific notes for each course.

平成29年度大阪府立三国丘高等学校
全日制の課程普通科教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

Table with columns for subject, course type, and credit hours. Includes sections for General Education (普通科), Specialized Education (専門科), and Selection Methods (選択の方法).

平成 29 年度大阪府立三国丘高等学校 SGH フィリピンフィールドワーク報告書

1. 実施日：平成 29 年 7 月 30 日～8 月 6 日（7 泊 8 日）

2. 参加者：第 2 学年 SGH 授業選択生徒 20 名

3. 付添教員 5 名

元国連開発計画 開発政策局長 西本昌二先生、首席・SGH 研究主任 田中和代
教諭 大塚雅之、柿本早紀、田中洋平

4. 目的

フィリピンにおいて発展途上国の現状を視察し、人々の生活や問題点などを肌で感じ、課題研究である BOP ビジネスプランの作成に生かす。また、国際機関における研修を通じて国際支援の実情を学ぶとともに、エンドラン大学生との 6 日間の合同研修において海外の学生との理解を深める。

5. 詳細報告

7月30日（日）1日め

関西国際空港に集合し、フィリピン航空でマニラへ。到着が 1 時間遅れたため、例年よりニノイアキノ国際空港が混雑していなかった。今年からホリデイインギャレリアにホテルを変更したが、直通で食事をするショッピングモールに行けるので、安全面や天候に左右されない点などでとてもよかった。生徒たちは元気な様子で、1 日めを終了した。

7月31日（月）2日め

午前、アジア開発銀行にて特別講義を受けた。毎年担当してくれている Michelle がアテンドしてくれた。

講師：Mr. Takeshi Shiihara, Portfolio Management Specialist, South Asia Department

Ms. Sonalini Khetrpal, Health Specialist, Sustainable Development and Climate Change Department

生徒は活発に質問し、アジア開発銀行の事業内容や目的などを学んだ。同時に、国際機関で働く日本人のロールモデルに、国際機関で働くようになった動機や実際の仕事内容、働くために準備することなどについて直接話を聞くことができたことで、高校生にとっては大変実り多いものとなった。今年も中庭で記念撮影し、食堂で昼食をとった。



午後は、エンドラン大学でバディと初めて対面した。エンドラン大学では、本校との合同フィールドワークをもとに、新たに **Leadership Program** というカリキュラムを昨年から立ち上げ、そのカリキュラムを受講している生徒たちの中から選抜された 20 名と一緒に活動することになった。来比前にバディとメールでやりとりしていたとはいえ、直接会うのは初めてとあって緊張した面持ちの生徒たちだったが、フィリピンの学生たちはとても明るく親切で、対面後、ゲーム等をして生徒たちの緊張をやわらげてくれた。特にリーダーの **Amber** は準備段階から細部に気を配り、このプログラムのために献身的な働きをしてくれた。打ち解けた後生徒たちは、日本から考えてきたビジネスプランについてバディに説明し、アドバイスを受けた。



8月1日（火）3日め

午前中は前日に引き続きエンドラン大学生とビジネスプランについて協議した。

午後は、世界的に有名ないわゆるごみ山のある **Payatas**（パヤタス）へエンドラン大学生と共に向かった。**Payatas** は地名で、訪問したごみ処分場は正式名を **Engineered Sanitary Landfills** といい、**Quezon City** が管理している。以前別の場所にあったごみ処分場が移転されたものであり（以前のごみ山はごみが崩れて多数の死者が出たため）、移転の際にメタンガスを集める装置を設置したり、ごみ分別の知識を広めたり、**Payatas** の住民の生活向上のための取組をしている。フィリピンにはごみ焼却場がないので、ごみを圧縮して埋め立てるしかないのだが、いまだにごみの分別などによるわずかな収入で暮らしているいわゆるスカベンジャーと呼ばれる人々が **Payatas** の町を形成している。バスの中から貧しい **Payatas** の町並みや人々の様子を見つつ、パネル展示などがある **NGO** のブースを訪問した。今回で3度めの視察となったが、昨年たくさんのスカベンジャーがごみを集めていたごみ山はいっばいとなり、最終的な埋め立て地とするためにブルドーザーが土を入れている段階であった。

Payatas は水源の近くにあり問題もあることから間もなく閉鎖し、ごみ埋め立てを別の場所に移す予定であるとのことであった。生徒には、**Payatas** の経緯や閉鎖される見通しであること、ごみ問題はどの国のどこの地域でも深刻な問題であり、どのように解決していくのか考えていく必要があること等を説明した。現地のスタッフに、日本から持参した古着を渡し、**Payatas** を後にした。





8月2日（水）～4日（金）4～6日め

エンドラン大学の学生と一緒に GK Farm (以下 GK) での2泊3日の研修を実施した。GKは、起業家を育成することによってフィリピンにある資源を使った産業を発展させ、人々に良質な地産地消の食品や製品等を供給するとともに貧困問題を解決していくことを理念とした、広大な農場である。GKとは“Gawad Kalinga”の略で、意味は“give care”。現在、GKには世界中から優秀な若者が集まり起業したり、学んだりしている。到着時には創始者の Tony Meloto がウェルカムスピーチをしてくださり、また、元々は最貧困の暮らしをし、生きるために盗みを働かざるを得なかった若者たちが、GK でビジネスを学び海外留学を果たし、今は希望をもって生活している話などを聞かせてくれた。今年で3回めの訪問であったが、2月に開かれたサミットという大きなイベントの影響で、以前よりも食堂が素晴らしい建物になっていたり、プログラムに様々なワークショップが組み込まれていたりして、事業が順調に展開していることがわかった。生徒たちは様々なプログラムに参加し、英語を使って意見を交換し、発表を行った。今年も本校生徒会より、GKの中にあるビジネス学校 LEED およびコミュニティの子供たちに文房具、バスケットボールなどのボール類を寄付した。GK Farm での研修内容は以下の通り。

DAY 1	
10:00	Arrival at the Farm, Check-In
11:00	Orientation and Expectation Sharing
12:00	Lunch
13:30	Plush And Play Demo
14:30	First Harvest Demo
15:30	Ambension Silk Livelihood Workshop
19:00	Dinner
20:00	Short Processing and Reminders for Day 2
22:00	Lights Out
DAY 2	
6:00	Farming Activity
7:30	Breakfast
9:00	Farm Hope Tour
12:00	Lunch
13:30	SEED Enterprize Pitch Workshop
15:30	Farming Race
19:00	Boodle Fight
20:00	Cultural Night
DAY3	
7:30	Breakfast
9:00	MAD Travel Marketing & Branding Workshop
12:00	Lunch
13:30	Departure from the Farm



8月5日（土）7日め

この日はエンドラン大学にて、午前中プレゼンテーション準備、午後プレゼンテーションとなった。エンドランの学生たちは、スライド作りやスピーチの構成などよく本校の生徒の面倒をみてくれ、午後の発表は本校の生徒がプレゼンテーションし、質疑応答はエンドランの学生がサポートする形で行われた。また、昨年のリーダーである Kamiekah や昨年参加してくれた生徒が駆けつけてくれた。発表内容は以下の通り。

- | | | |
|--------------|----------------|------------|
| 1. GUGO SOAP | 2. VATAKI | 3. HANIKO |
| 4. MORINGOOD | 5. MASAYA MOOO | 6. ENKAHON |

各班とも、日本で練ってきたビジネスプランが、フィリピンでの経験やエンドランの学生の協力で新しいアイディアに生まれ変わっていたり、具体的に進化したりしていた。日本にいるだけではわからないフィリピンの若者の文化や教育プログラムについても知ることができた。



その後、Closing Ceremony としてエンドラン大学学長の Mr. Ed Rodriguez、本校から西本先生にスピーチをいただき、一人一人に修了証を贈呈したあと、記念植樹をした。その後、フィリピンの遊びや日本の遊び（だるまさんが転んだ）を一緒に楽しんだ後、エド学長が用意して下さったフィリピン料理をいただきながらお別れパーティをした。生徒は自主的にエンドラン学生リーダーの Amber にお礼を述べるなど、最後の夜を楽しく過ごした。エンドランの学生はみんな優秀で面倒見がよく、年下の高校生相手にいろいろと尽力してくれた。ありがたいことに、昨年参加して勉強になったからと今年も参加してくれた学生も多かった。本校の生徒にとっても一生のつながりができたのではないかと思う。

夜ミーティングを行い、最後のスケジュール確認をするとともに西本先生よりフィールドワークを締めくくるお言葉をいただいた。生徒代表が、このような特別なフィールドワークを手配いただいたことへの感謝を西本先生へ申し上げて、最後のミーティングが終了した。



8月6日（日）8日め

10時にホテルを出発し、11時前に空港に到着、予定通り日本時間午後7時頃関西国際空港到着、解散した。

6. おわりに

本校が来年度で SGH 指定最後の5年めを迎えるということで、指定後もエンドラン大学との Leadership Program を続けていくために、エンドラン大学のスタッフと更なる発展形について話し合うことができた。来年度はその試みとして、エンドラン大学の寮に滞在し、エンドラン大学生としての生活を体験しながら英語のレッスンを受けたり、今まで通りエンドラン大学生とバディを組んで貧困層の暮らしを見に行ったり GK Farm に滞在したりする予定である。

最後に、昨年に引き続きこのフィールドワークを実現して下さったエンドラン大学の Ed 学長、Leadership Program の Marivic 教授、学生代表の Amber、西本先生、そしてアジア開発銀行、GK Farm 関係者各位に心から感謝申し上げたい。

7. 生徒感想

・フィリピンフィールドワークにおいて、自分の目で見ることで実際に貧困を実感し、以前はフィリピンでの貧困から人々を救いたい、助けたいと思っていたが、救わないといけない、助けないといけないという義務感を感じた。生まれた瞬間に決まる不平等、不自由は、やはりあっては

ならないことだと強く再認識した。ADBでの講義やGK Farmでの研修において、フィリピンのインフラ整備の重要性を感じ、自分が将来やりたい仕事や夢は全く考えられてなかったが、自分は発展途上国のインフラ整備に携わりたいなと思った。また、英語での講義やエンドラン大学生との交流の中で、英語能力の重要性を感じたうえ、外国人と交流することはとても刺激になり、自分とは文化の異なる人の価値観を理解することが重要なだけでなく、自分の考えを伝えることも重要だと思った。このフィールドワークはとても貴重な経験であり、少しでも世界を知ることができた。この経験は一生の財産になると思う。

・フィリピンを実際に訪れて、実際に自分の目で見て、衝撃的だったことがたくさんあった。けれど私は先輩や先生からもっとひどい現状を聞いていたので、それほどでもないと思うところも多々あった。自分なりになぜかを考えてみると、日本にとっての1年は短く、それほど「発展した」と思うようなことは少ないけれど、フィリピンにとっての1年はとても大きく、少しずつ改善の方向に向かってきているのかな、と思った。それでも現状はすごくひどい。

BOPビジネスをより良いものにしたい、世界から貧困をなくしたい、国際社会に何か役に立つことのできる人材になりたいと、前にも増して強く思うようになった。帰りのバスで友達と、『もう10年くらいはフィリピンに来ることはないかもしれないね』と話した。その時に、次訪れた時にはフィリピンはすごく発達していて、スラムやボロボロな家が減って、街でストリートチルドレンの姿を見かけなくなって、高いビルがいっぱい建っているのかもしれないなと思った。そうやってほしいと思う。

・まずこのような機会を与えてくださった西本昌二先生や三国丘の先生方、エンドラン大学の皆さん、両親等々に感謝します。自分とは違う考え方、価値観の人たち（フィリピン人）と会って交流し、新たな発見につながったことは自分の世界観や視野が広がったのは確実である。8日間のフィールドワークは行く前はとても楽しみであったし、心配な部分もあったが全日程を終えてみるとあっという間だった。これはすごく充実した8日間であったからだと思う。自分は将来発展途上国に関わる仕事をしたいと思っているので、今回のフィールドワークは今後の人生にアドバンテージをもたらすにちがいないと思うし、参加して本当に良かったと思う。ADBでの研修、エンドラン大学生との交流、スモーキーマウンテンの研修、GK Farmでの研修など、帰国後思い返すとすごいことをしていたと感じた。フィリピンは深刻な問題が多々あるが、町の雰囲気や人々等を見てみると、決して希望を失ってないように思えた。だから「貧困」だからと言って人々は不幸ではないと感じた。自分はたまたま日本という豊かな国に生まれたし、たまたま貧困の家庭に生まれた人もたくさんいる。でも、自分が何者であろうと、一回限りの人生をどれだけ楽しいと思えたかが大事だと考える。楽しさの基準は環境や状況によりまちまちであるが、フィリピンで出会った人々と同様に、自分の置かれた立場を考えて日々全力でがんばりたい。そうすることで、とても貧しい人々と交流する際、自分の生き方に自信を持ち、正々堂々とした態度で話することができる気がする。途中、自分たちのいたらないことで先生方から指導を受けたり、お互いの思いを話し合うことができたりしたので、そういう面でも非常に良かったのではないかなと思う。高校生でこのような経験をさせてもらえてありがとうございます。

・3月の米国ポートランド市研修では、建物の価値を投資によって高めたり、市民の思いを local designer が建設物に反映したりすることや、ソーラーパネルの設置やグリーンビルディングなど、環境に配慮しながら今ある生活を更に良くしていくためのものを主に学んだ。一方フィリピンでも、私たちが考えている BOP ビジネスプランのように、生活の質を向上させる取組が必要だと思った。しかし私はポートランドでは、この問題は早急に解決策に向かって取り組まなければいけ

ない、と感じた場面はあまりなかった。ポートランドではどこに行っても比較的綺麗な家が立ち並んでいて、道路も清潔であった。フィリピンでは、高層ビルが建っているすぐそばにもゴミの入った袋がつまれており、もはや家かどうかわからない小屋のようなものもあった。ポートランドでは日本の未来像、フィリピンでは過去の日本を見た気がした。フィリピンは、何十年後かには発展してポートランドのようになっているのかもしれないが、今はその想像ができない。

・この8日間、毎日が本当に濃く刺激的な日々でした。日本から出て、たくさんの講義を受けたり、街の様子を見たりしていると、自分の視野が広がったと同時に、今まで自分がどれだけ狭い世界で生きていたのかを痛感しました。「ものを盗まないとい今日食べるものもない」というような人たちを目の前にしたり、ショッピングモールで子供連れの母親に「お金をくれ」と言われたり、貧困というものを実際に見て、これまでの自分の生き方の甘さを思い知らされました。そんな貧困層の人たちに自分は一体何ができるのか、また、自分はこのように差別的な立場になる可能性はあるのか、たくさんのことを考えるきっかけになりました。また、滞在中の主な言語が英語だったので、これまでよりも格段に英語が聞き取れるようになったり、とっさに英語が出せるようになったり、英語力の面でも成長することができてとても嬉しいです。たくさんの方々の支えがあって実現した今回のフィールドワークなので、心から感謝の気持ちを忘れてはいけないと感じています。

8. アンケート結果

- 1 フィリピンフィールドワークは全体としてどうでしたか。
- 2 アジア開発銀行での研修はどうでしたか。
- 3 Payatas視察はどうでしたか。
- 4 GK Farmにおける研修はどうでしたか。
- 5 Enderun大学生とのBuddy Systemはどうでしたか。
- 6 Endurun大学でのプレゼンテーションはどうでしたか。
- 7 ホテルはどうでしたか。
- 8 食事はどうでしたか。

%			
とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
95%	5%	0%	0%
42%	53%	5%	0%
26%	68%	5%	0%
84%	16%	0%	0%
100%	0%	0%	0%
26%	37%	37%	0%
89%	11%	0%	0%
47%	53%	0%	0%

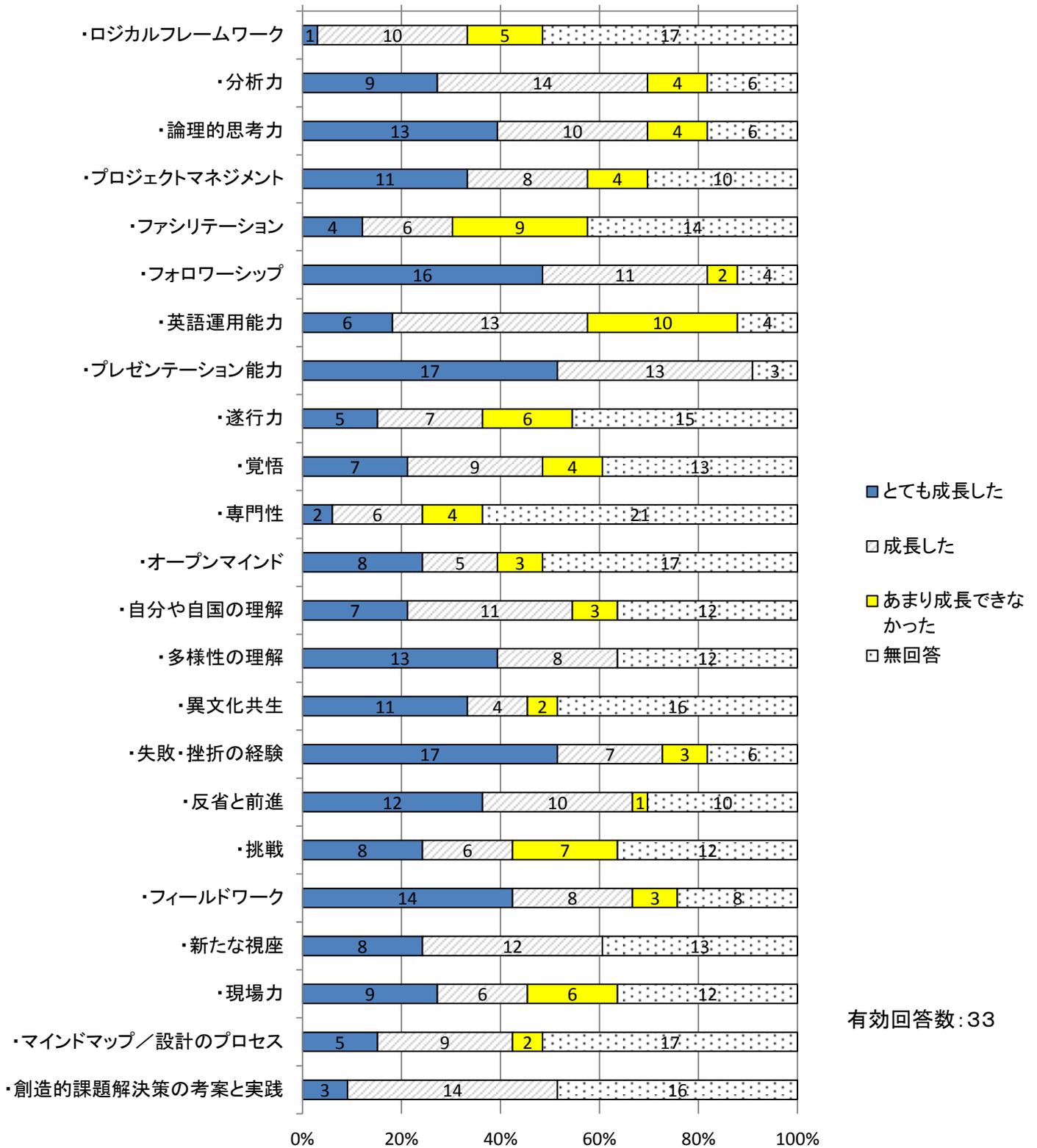
以上

大阪府立三国丘高等学校SGH 2年生課題研究発表 ルーブリック

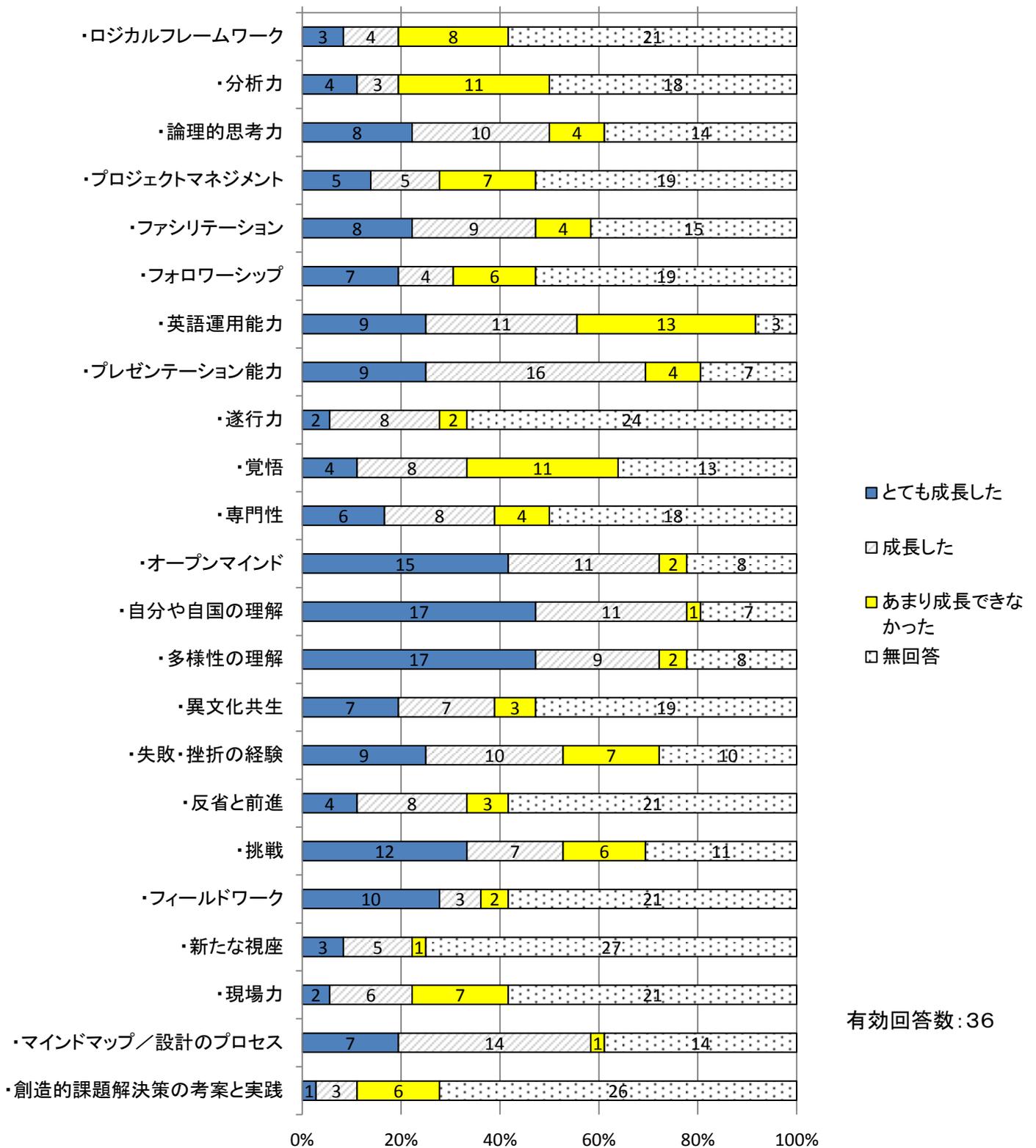
	課題設定	調査が十分	論理的に分析	提言	声量
5	研究対象を深く理解した上で課題を設定し、オリジナリティも高く、研究の意義が明確である。	実際に周到な調査及び正確な資料を収集している。また、典拠がきわめて明確に示されている。	結論や結果が揺るぎない根拠に基づいて示されており、理路整然と論理的に主張が展開できている。	オリジナリティがあり、かつ現実社会でも十分実現可能な提言となっている。	聞き取りやすく、話すスピードも適切である。
4	研究対象を深く理解した上で課題を設定し、研究の意義が明確である。	正確な資料を収集している。また、典拠がきわめて明確に示されている。	結論や結果が根拠に基づいて示されており、論理的に主張が展開できている。	オリジナリティがあり、高校生らしい提言となっている。	聞き取りやすい。
3	研究対象を深く理解した上で課題を設定し、研究の意義を示すことができている。	正確な資料を収集している。	結論や結果が示されているものの、根拠が不十分である。主張の展開の論理性が弱い。	オリジナリティのある提言となっている。	大きな声でよく聞こえる。
2	研究対象を理解した上で課題を設定することができている。	資料を収集しているが、不適切な点がいくらか見られる。	結論や結果が示されているものの、根拠がない。もしくは結論や結果が明確に示されていない。	ありふれた提言にとどまっている。	小さな声で聞き取りにくい。
1	研究対象に対する理解が不十分なまま課題設定をしている。	調査や資料の収集が不十分である。	結論や結果が示されていない。	提言として成立していない。	聞き取れない声量である。

	説明が明確	構成	スライド	パフォーマンス	情熱・チームワーク
5	聴衆が理解できるように十分に配慮し、説明の順序立ても適切である。	聴衆を引き付けるよう工夫されており、根拠や結論などが明確に示されている。	スライド数は極めて適切である。	発表は自信に満ちており、聴衆を魅了するほどの卓越した表現技法を用いている。	チームの中で役割分担ができており、各員が情熱をもって、自らの役割を十分に果たしている。
4	聴衆が理解できるように十分に配慮し、明確な説明である。	根拠や結論などが明確に示されている。		発表は自信に満ちており、聴衆へ訴えかけるものとなっている。	チームの中で役割分担ができており、各員が自らの役割を果たそうと努力している。
3	聴衆が理解できるように十分に配慮した説明である。	根拠や結論などが示されている。		発表は自信に満ちたものとなっている。	チームの中で役割分担ができていいる。
2	聴衆の理解を考慮に入れておらず、単調な説明である。	根拠や結論などの構成が一部不十分な点がみられる。		発表が自信なさげなものとなっている。	特定のメンバーに仕事が集中し、役割分担が不明確となっている。
1	分かりにくい説明である。	根拠や結論などの構成が不適切である。	スライド数に工夫の余地がある。	発表が自信なさげなものとなっており、聴衆への配慮に欠けたものとなっている。	チームがバラバラで、情熱が感じられない。

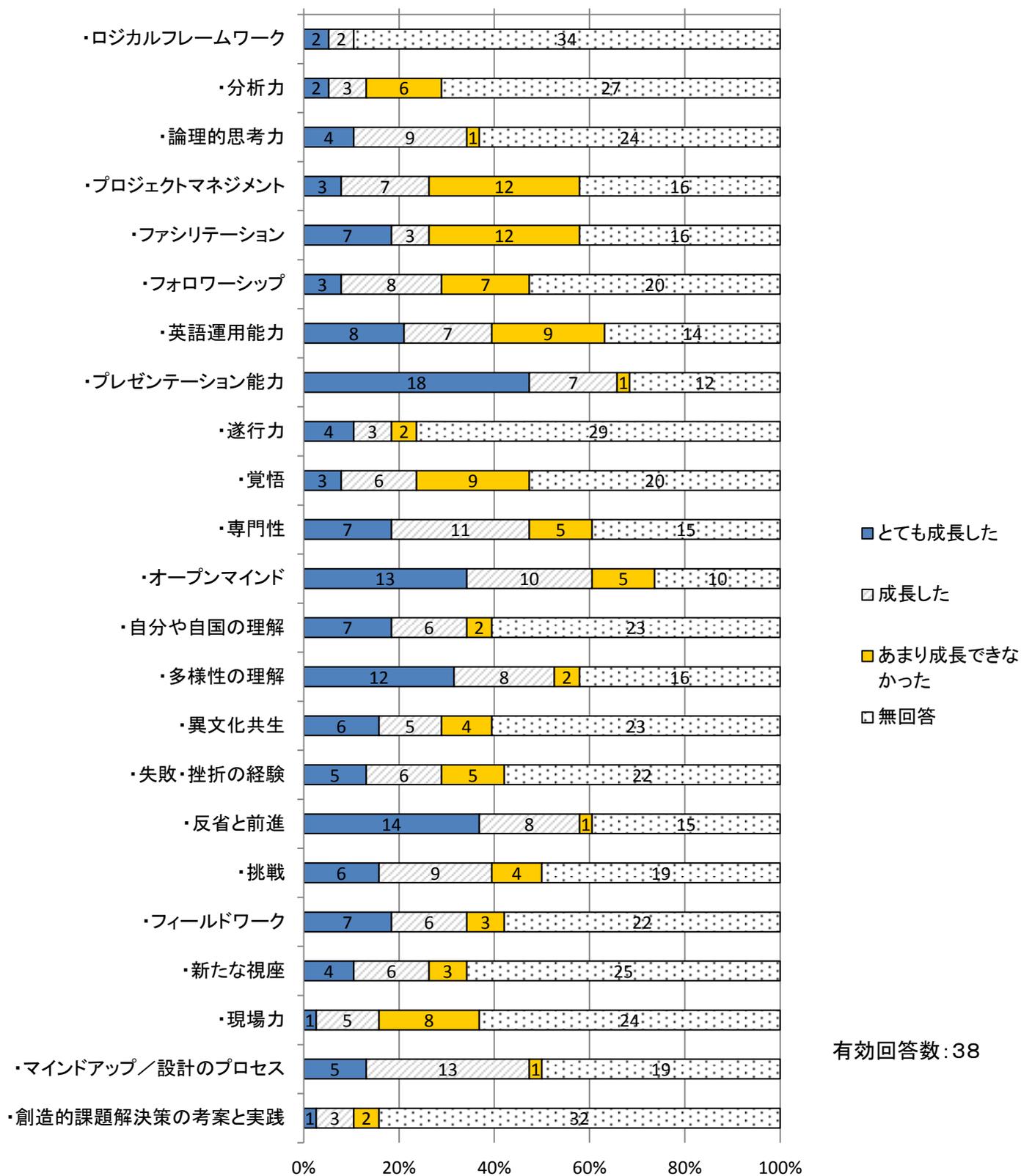
2016年 大阪府立三国丘高等学校 SGH 3年生(69期生) 評価ポートフォリオ集計結果



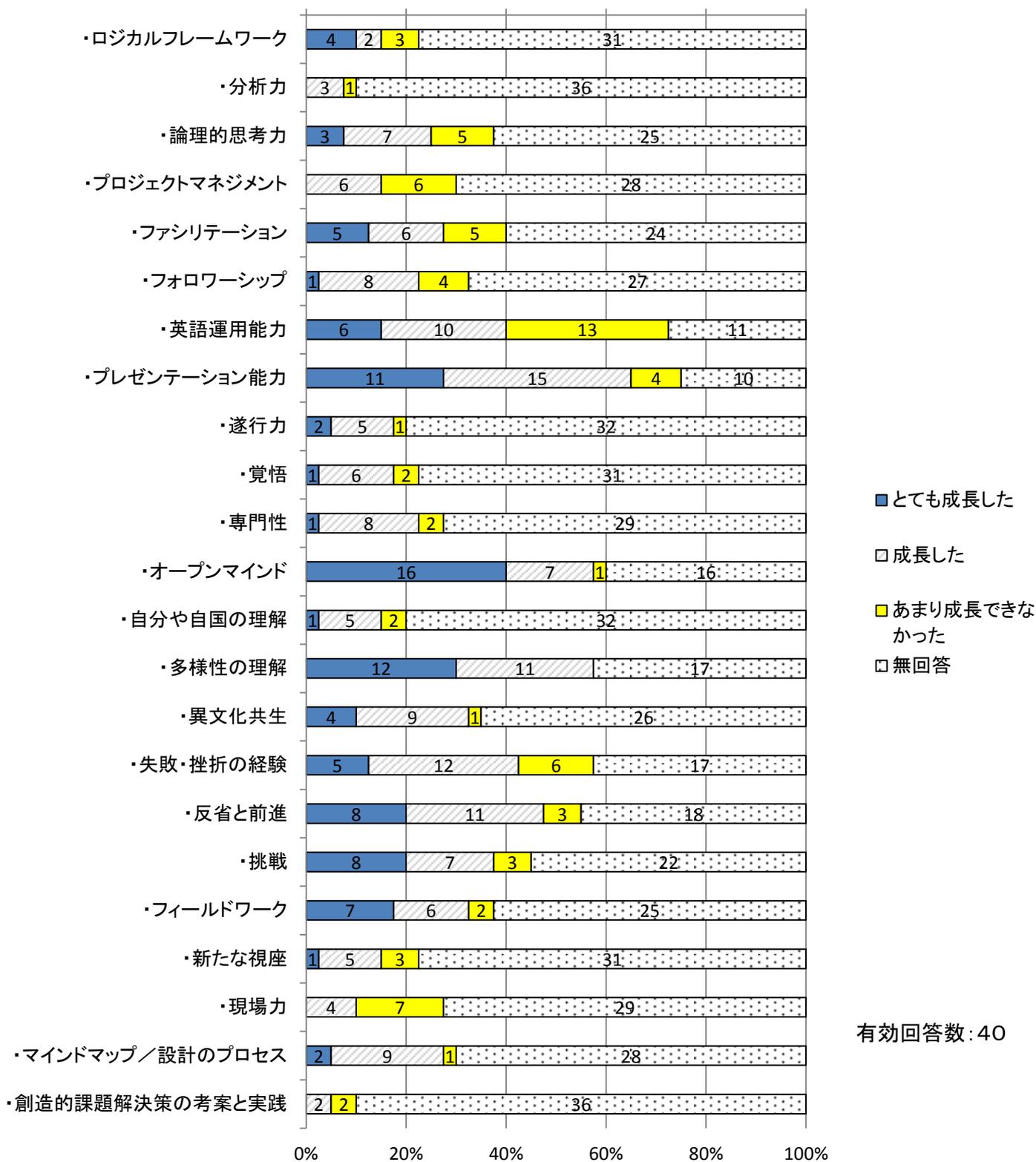
2016年 大阪府立三国丘高等学校 SGH 2年生(70期生) 評価ポートフォリオ集計結果



2017年 大阪府立三国丘高等学校 SGH 3年生(70期生) 評価ポートフォリオ集計結果



2017年 大阪府立三国丘高等学校 SGH 2年生(71期生) 評価ポートフォリオ集計結果



三国丘SGHアンケート結果	69期生	70期生	71期生	72期生
2017年度	(卒業生)	(3年生)	(2年生)	(1年生)

<進路・将来について>

①将来SGU(スーパーグローバルユニバーシティ)へ進学希望をもっているか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	53%	30%	10%	8%	83%
	70期生	41%	41%	10%	8%	82%
	71期生	33%	40%	23%	5%	73%
	72期生	43%	45%	5%	5%	88%
1年 学年末	69期生	49%	36%	13%	3%	85%
	70期生	28%	56%	10%	5%	84%
	71期生	10%	64%	15%	10%	74%
	72期生	8%	68%	11%	11%	76%
2年 学年末	69期生	36%	43%	18%	4%	79%
	70期生	25%	44%	8%	22%	69%
	71期生	20%	64%	3%	13%	84%

②海外の大学に進学したいか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	13%	23%	36%	28%	36%
	70期生	10%	15%	44%	31%	25%
	71期生	10%	28%	50%	13%	38%
	72期生	8%	28%	45%	20%	36%
1年 学年末	69期生	18%	35%	25%	23%	53%
	70期生	18%	36%	31%	15%	54%
	71期生	3%	41%	38%	18%	44%
	72期生	5%	39%	32%	24%	44%
2年 学年末	69期生	4%	36%	46%	14%	40%
	70期生	22%	31%	25%	22%	53%
	71期生	7%	49%	21%	23%	56%

③将来留学をしたいか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	65%	28%	5%	3%	93%
	70期生	67%	23%	10%	0%	90%
	71期生	53%	35%	10%	3%	88%
	72期生	68%	20%	10%	3%	88%
1年 学年末	69期生	63%	28%	5%	5%	91%
	70期生	72%	18%	8%	3%	90%
	71期生	54%	38%	8%	0%	92%
	72期生	76%	16%	5%	3%	92%
2年 学年末	69期生	79%	14%	7%	0%	93%
	70期生	78%	8%	8%	6%	86%
	71期生	79%	18%	3%	0%	97%

④将来仕事で国際的に活躍したいか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	70%	25%	5%	0%	95%
	70期生	56%	41%	3%	0%	97%
	71期生	50%	45%	5%	0%	95%
	72期生	63%	30%	8%	0%	93%
1年 学年末	69期生	65%	30%	3%	3%	95%
	70期生	54%	38%	8%	0%	92%
	71期生	54%	41%	3%	3%	95%
	72期生	66%	24%	5%	5%	90%
2年 学年末	69期生	68%	25%	7%	0%	93%
	70期生	64%	31%	0%	3%	95%
	71期生	54%	44%	3%	0%	98%

<創造的能力について>

⑤現状を分析し、課題を発見する能力があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	19%	48%	35%	0%	67%
	70期生	5%	38%	46%	10%	43%
	71期生	5%	43%	48%	5%	48%
	72期生	10%	38%	45%	8%	48%
1年 学年末	69期生	44%	54%	3%	0%	98%
	70期生	28%	64%	8%	0%	92%
	71期生	36%	54%	10%	0%	90%
	72期生	29%	66%	5%	0%	95%
2年 学年末	69期生	18%	75%	7%	0%	93%
	70期生	67%	33%	0%	0%	100%
	71期生	41%	54%	5%	0%	95%

⑥創造的課題解決能力があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	26%	36%	38%	0%	62%
	70期生	3%	8%	77%	13%	11%
	71期生	0%	28%	65%	8%	28%
	72期生	3%	23%	68%	8%	26%
1年 学年末	69期生	28%	56%	15%	0%	84%
	70期生	36%	46%	18%	0%	82%
	71期生	21%	69%	10%	0%	90%
	72期生	29%	66%	5%	0%	95%
2年 学年末	69期生	18%	61%	21%	0%	79%
	70期生	53%	42%	6%	0%	95%
	71期生	41%	54%	5%	0%	95%

⑦探究的能力があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	29%	38%	33%	3%	67%
	70期生	15%	56%	23%	5%	71%
	71期生	18%	45%	33%	5%	63%
	72期生	20%	55%	23%	3%	75%
1年 学年末	69期生	50%	40%	8%	3%	90%
	70期生	51%	44%	5%	0%	95%
	71期生	31%	62%	8%	0%	93%
	72期生	45%	55%	0%	0%	100%
2年 学年末	69期生	32%	61%	7%	0%	93%
	70期生	78%	17%	6%	0%	95%
	71期生	51%	41%	8%	0%	92%

⑧研究結果をまとめ、発表する能力があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	29%	28%	43%	3%	57%
	70期生	13%	36%	41%	10%	49%
	71期生	8%	40%	43%	10%	48%
	72期生	13%	43%	43%	3%	56%
1年 学年末	69期生	49%	44%	8%	0%	93%
	70期生	56%	41%	3%	0%	97%
	71期生	33%	56%	10%	0%	89%
	72期生	53%	42%	5%	0%	95%
2年 学年末	69期生	29%	64%	7%	0%	93%
	70期生	78%	22%	0%	0%	100%
	71期生	64%	33%	3%	0%	97%

<課題研究の内容について>

⑨世界が直面する問題への関心があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	63%	30%	5%	3%	93%
	70期生	67%	31%	3%	0%	98%
	71期生	49%	44%	5%	3%	93%
	72期生	53%	45%	3%	0%	98%
1年 学年末	69期生	70%	28%	3%	0%	98%
	70期生	67%	28%	5%	0%	95%
	71期生	62%	36%	3%	0%	98%
	72期生	68%	21%	11%	0%	89%
2年 学年末	69期生	68%	29%	4%	0%	97%
	70期生	72%	25%	3%	0%	97%
	71期生	69%	31%	0%	0%	100%

⑩社会貢献への意識があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	68%	25%	8%	0%	93%
	70期生	56%	38%	5%	0%	94%
	71期生	43%	40%	18%	0%	83%
	72期生	65%	25%	10%	0%	90%
1年 学年末	69期生	47%	47%	5%	0%	94%
	70期生	49%	49%	3%	0%	98%
	71期生	38%	54%	8%	0%	92%
	72期生	66%	26%	8%	0%	92%
2年 学年末	69期生	61%	39%	0%	0%	100%
	70期生	75%	22%	0%	3%	97%
	71期生	54%	38%	8%	0%	92%

⑪環境保護と発展に対する意識があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	58%	30%	10%	3%	88%
	70期生	38%	51%	10%	0%	89%
	71期生	35%	35%	28%	3%	70%
	72期生	48%	45%	8%	0%	93%
1年 学年末	69期生	43%	53%	3%	3%	96%
	70期生	64%	31%	5%	0%	95%
	71期生	41%	41%	15%	3%	82%
	72期生	39%	47%	13%	0%	86%
2年 学年末	69期生	36%	46%	18%	0%	82%
	70期生	44%	44%	11%	0%	88%
	71期生	56%	38%	5%	0%	94%

⑫東南アジアの現状に対する認識があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	20%	26%	46%	8%	46%
	70期生	23%	31%	38%	8%	54%
	71期生	13%	30%	53%	5%	43%
	72期生	28%	28%	35%	10%	56%
1年 学年末	69期生	23%	51%	26%	0%	74%
	70期生	31%	46%	21%	3%	77%
	71期生	23%	49%	26%	3%	72%
	72期生	26%	47%	18%	8%	73%
2年 学年末	69期生	32%	54%	14%	0%	86%
	70期生	64%	36%	0%	0%	100%
	71期生	51%	41%	8%	0%	92%

⑬起業及びビジネスの社会責任への関心があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	28%	44%	26%	3%	72%
	70期生	13%	44%	31%	13%	57%
	71期生	18%	30%	38%	15%	48%
	72期生	28%	38%	33%	3%	66%
1年 学年末	69期生	51%	33%	15%	0%	84%
	70期生	38%	46%	13%	0%	84%
	71期生	36%	46%	13%	5%	82%
	72期生	47%	32%	18%	3%	79%
2年 学年末	69期生	54%	32%	14%	0%	86%
	70期生	75%	22%	0%	3%	97%
	71期生	41%	49%	8%	3%	90%

⑭UNDP等の国際機関の役割への理解があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	15%	13%	43%	30%	28%
	70期生	8%	28%	41%	23%	36%
	71期生	0%	8%	50%	43%	8%
	72期生	20%	30%	45%	5%	50%
1年 学年末	69期生	49%	41%	10%	0%	90%
	70期生	28%	46%	23%	0%	74%
	71期生	26%	51%	23%	0%	77%
	72期生	32%	45%	18%	5%	77%
2年 学年末	69期生	18%	54%	21%	7%	72%
	70期生	42%	47%	11%	0%	89%
	71期生	21%	56%	10%	13%	77%

<海外への関心、英語力について>

⑮高校在学時に海外研修への参加や留学希望があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	65%	23%	8%	5%	88%
	70期生	56%	33%	8%	3%	89%
	71期生	56%	40%	10%	0%	96%
	72期生	65%	23%	8%	5%	88%
1年 学年末	69期生	65%	30%	5%	0%	95%
	70期生	67%	15%	18%	0%	82%
	71期生	59%	26%	15%	0%	85%
	72期生	50%	37%	8%	5%	87%
2年 学年末	69期生	50%	32%	11%	7%	82%
	70期生	69%	19%	6%	6%	88%
	71期生	62%	28%	10%	0%	90%

⑯英語運用能力があるか

アンケート実施時期		強く思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない	肯定的回答
入学時	69期生	5%	18%	64%	13%	23%
	70期生	3%	18%	64%	15%	21%
	71期生	3%	18%	60%	20%	21%
	72期生	3%	28%	63%	8%	31%
1年 学年末	69期生	26%	51%	21%	3%	77%
	70期生	26%	54%	21%	0%	80%
	71期生	13%	67%	21%	0%	80%
	72期生	21%	55%	21%	3%	76%
2年 学年末	69期生	11%	43%	32%	4%	54%
	70期生	28%	44%	25%	3%	72%
	71期生	38%	41%	21%	0%	79%

<志望動機>

⑰入学前に、本校がSGHIに指定されていることを知っていましたか ⑱本校を受験する際に、本校がSGHIに指定されていることが志望動機になりましたか

アンケート実施時期		知っていた	知らなかった	アンケート実施時期	なった	ならなかった
入学時	70期生	100%	0%	70期生	74%	26%
	71期生	95%	5%	71期生	78%	23%
	72期生	95%	5%	72期生	68%	33%

平成26年度指定

スーパーグローバルハイスクール研究報告書 第4年次

平成30年3月発行

発行者 大阪府立三国丘高等学校

〒590-0023

大阪府堺市堺区南三国ヶ丘町2-2-36

TEL 072-233-6005

FAX 072-233-6779